

議事録

審 議 会 等 名	令和 7 年度 第 2 回ふるさと創生事業推進委員会
開 催 日	令和 7 年 11 月 14 日 (金)
開 催 場 所	つくばみらい市役所 伊奈庁舎 2 階 会議室 1・2
出 欠 者	<ul style="list-style-type: none"> ●出席委員：吉田和雄会長、秋田政夫副会長、山野井周一委員、久下伸子委員、坂田清委員、福島里枝委員、紫咲大佳委員、黒澤貴也委員 以上 8 名 ●欠席委員：北島重司委員、小菅新一委員、以上 2 名 ●市出席者：大山市長公室長 企画政策課 尾崎課長、大野課長補佐、水越係長、黒田主幹、瀬戸間主事 産業経済課 新田課長補佐、井砂主査、織屋主事 社会福祉課 倉持課長補佐 上下水道課 中村課長補佐、石引主査、間根山主事 学校総務課 学校給食センター 成島所長、赤根主査、菅野係長、 ●傍聴人：無し
議 案	令和 8 年度から新たにふるさと創生事業の位置づけを希望する事業について (審議)
議 案 概 要	<p>次第</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 (午後 2 時 00 分) 2. 会長挨拶 3. 諒問書伝達 4. 議事 <ul style="list-style-type: none"> ・令和 8 年度から新たにふるさと創生事業の位置づけを希望する事業について (審議) 5. 閉会 (午後 4 時 30 分)

【議事の主旨】

令和8年度から新たにふるさと創生事業の位置づけを希望する5つの事業について、各担当課から説明し、審議を行って頂いた。その結果、いずれもふるさと創生基金取扱規程に合致し、位置付けが適当であるとの審議結果であった。

■議事

- ・会長が議長となり、議事について事務局及び事業担当課から説明

提案事業

- ・「みらいりんぞう」魅力発信事業（着ぐるみ製作）
- ・きらくやまテニスコートリニューアル事業
- ・市制20周年記念デザインマンホール製作・設置事業
- ・マンホールカード作成事業
- ・市制20周年記念献立事業

【質疑等】

委員

ふるさと創生基金の現時点の残高と、今回提案があった事業の総事業費は。

事務局

残高は約1億7,000万。今回提案の事業費の見込総額は、約2,080万円。

委員

「みらいりんぞう」魅力発信事業について。着ぐるみについては、夏の酷暑に対応できるよう、お金かけていいものを作って欲しい。

また、デザインマンホールの製作についても、せっかく製作するのであれば、お金をかけて良いものを作って欲しい。また、マンホールカードも収集家がいるので、いい事業だと思う。

配布方法について、平置きにすると盗まれてしまうのではないか。方法はよく検討してほしい。

市制20周年記念献立事業で、ワクワクする給食を提供することは大変良い事業と思う。1人の通常の給食費に130円上乗せということだが、130円の根拠は。

産業経済課

保冷剤を多くつけられるようなスペースを設けるなど、メーカーと検討して対応を考えていきたいと思っている。

委員

この暑さでは、外から見ても着ぐるみの中の方が大変なのが分かる。よく検討して欲しい。

上下水道課

デザインマンホールのデザインに関しては、市内在住の漫画家の方に依頼しているところで、市民に親しみをもってもらえるようなデザインを考えている。

マンホールカードの配布場所は検討中だが、マンホールカードの発行要件の1つに土曜日や日曜日の配布が必要で、要件をクリアできる配布施設を探しているところ。また、配布方法は、直接手渡しで考えている。

学校給食センター

130円の根拠は、メインの食材で特別感を出すために、30円から50円前後の上乗せを見込んでいる。例えば、10周年等の際は、海苔のパッケージなどに印刷を施しており、それに20円から40円前後かかった。デザートが、最低でも60円以上することから、それらを鑑み130円とさせていただいた。

委員

子どもは食べることを楽しみにしているため、子ども達が何を食べたいか調べて金額を算出すると良いと思う。検討している事業費で足りるのか。

学校給食センター

子どもたちの希望の献立については、リクエスト献立という形で、年に1回子どもたちがリクエストした献立を提供している。ただ、リクエストされるものが毎回同じ傾向があるため、より特別感のあるものを子どもたちに提供したいと考えていて、見た目以外も楽しめるような給食を提供したいと考えている。

また130円の根拠について補足だが、あまり1回のメニューを高額で豪華にしてしまうと、翌日の給食の落差を感じてしまうことも懸念しており、特別感も出しつつその様な点も配慮して、130円で設定したところ。

市長公室長

デザインマンホールの件で補足。マンホールのデザインは、市内在住の漫画家の千葉侑生先生にお願いしている。2020年から少年ジャンププラスで「幼稚園WARS」という漫画を連載しており、現在15巻の単行本が発売されており、アニメ化も予定されていることから、これから更に人気が出る漫画と考えており、市としては、千葉先生にお願いをしてデザインを制作して頂く計画で進めている。

事務局

先ほどの残高の件で補足。現時点の残高は約1億7000万円。すでにふるさと創生事業として認められている事業が4つあり、「桜並木の保全事業」「シティプロモーション事業」「20周年記念事業」「米コンテスト国際大会」。4つの事業の今年度予算額を合わせると3,243万7千円となっている。そして令和7年度末の残高見込みとしては、約1億3,600万。

委員

デザインマンホールについて。ほかの自治体には真似できないような取組だと思う。

提案だが、最近ポケモンのマンホール（ポケフタ）という物が全国的に設置されていて、SNSで盛り上がりを見せてている。地域の魅力発信や、観光振興、そして下水道への関心向上等がキャラクターを通じて行われている。

ポケモンはファンが多いキャラクターで、幅広い年代の方に興味を持って頂けて、より市外から人も呼べると思う。住民たちにも新たなまちの魅力発見ができるのではないかと思う。

また、更なるメリットとして、自治体がポケフタの設置を応募して採択されると、無償でポケフタが提供されること。費用の面でもメリットがあり、かつデザイン的にも非常に魅力もあることから、20周年の記念と合わせて、さらに市の魅力をプラスできるのではないかと思う。

上下水道課

ポケフタについては、茨城県内での募集があり茨城県が当市も含めて応募をしたが、選ばれなかった。別途、市単独での応募も可能な様だがハードルが高く、まずは我々としては今回の事業で進めていき、ポケモンデザインのマンホールについても引き続き検討していくたい。

委員

テニスコートのリニューアル事業について。子どもの話を聞くと「きらくやまで遊びたい」「きらくやまで待ち合わせしたい」という話題が出るが、アクセスがあまりにも悪く、どんなに魅力的でも行くことができないというのが、大きな課題と考える。きらくやまが充実していくのは大賛成だが、親の送迎ありきの状況なのが惜しい。

マンホールカード作成事業について。コレクターが多いキャラクターでないと人を呼び込むのが難しく、まちの活性化につながっていかないのではないか。市外のコレクターをターゲットにする方法など、工夫が必要だと思う。また、もともと観光地であれば何を実施しても人を呼びめると思うが、市内に観光地と呼ばれるところが無く、そこも工夫は必要と感じた。

市制20周年記念献立事業について。私もイベント給食は大好きで、思い出がある。思い返すと、給食の前に放送される給食の説明が気分を盛り立ててくれた印象がある。献立だけではなく、演出があると価値が上がると思う。

社会福祉課

きらくやまについては、委員ご指摘のとおり交通の不便はあると認識。市のコミュニティバス担当課とも協議しながら検討していく。

上下水道課

マンホールカードについては、コレクターの方に継続的に訪れてもらえるような方法を検討していきたい。また、デザインマンホールの設置個所については、どこに設置すると一番効果があるのか、今後引き続き検討していきたい。

学校給食センター

20周年記念給食を実施させて頂ける場合、子ども達が楽しめる方法について検討しているところだが、担当者で話題に上がったのは、特別献立の日にみらいりんぞうが学校を訪ねたり、献立に関する掲示物を学校に毎月配布しているが、そこで詳しく市の魅力を発信して子どもたちにお知らせするなどがあった。

後は、委員のおっしゃっていたように市の魅力や市制20周年のこと、20年間でこんなことが起こった、というようなことを校内放送でご紹介することを考えている。

また、市民の方へは、広報紙やSNSで周知するほか、献立表に載せることで、親御さんにも周知していく様に努めたい。

委員

市制20周年記念デザインマンホール制作・設置について。マンホールは最終的に何枚作るのか。もし半分は展示用とのことであれば、その分はレプリカとして違う材質にするなど、安価に作ることはできないのか。

上下水道課

5種類のデザインで計10枚作成する。展示用のデザインマンホールの作り方は様々な方法があるようで、調査研究している最中。デザインマンホールのコンクールがあり、そこに出展する場合の要件などもあることから、どのように作成するのが良いか、費用感も踏まえて検討していきたい。

委員

デザインマンホールの展示場所は、ぜひ市民の方が見やすい場所にして頂きたい。また、展示用は、種々の条件が無ければ、重い鉄製のものではなく、写真でも良いのではないかと思う。また、設置用がたった5個で少なく、設置場所もみらい平ばかりだと、せっかくのデザインマンホールを見る事ができない方もいらっしゃるかと思う。

きらくやまのテニスコートをリノベーションした場合、現在利用している方々は困らないか。また、改修後も引き続き予約制とすると、気軽に使えるかというと疑問である。むしろ芝生のスペースにフットサルコートを作る等の方が良いのではないか。

社会福祉課

きらくやまは委員のご指摘通りで、自由に使えるが、予約制で検討している。バスケットボールやフットサルは、ボールが外に出て行ってしまう可能性もあるが、テニスコートは現状フェンスで囲まれており安全。

また、きらくやまのテニスコートはハードコートで、バスケットボールが跳ねて適当との話も聞いているところ。

現在テニスコートは2面あり、1つのコートは車いすの方が入りやすいため、車いすテニスの方々に週1回以上利用して頂いている。ただ、ハードコートは流行りでない様子で、もう1つのコートは、あまり予約が埋まることはない。

委員

バスケットボールは、地面がコンクリートで、ボールとゴールがあれば楽しめる。せっかくなら、もっと人のいる街中に整備して欲しい。市役所の駐車場もあれだけ広いので、その一角を出入り自由のコートにするとか、いろんな年代の子どもと大人が、スポーツを通じて交流する場にもなるかと思う。

またみらい平地区には公園もたくさんあり、その中の1つくらいは球技のコートがあってもいいのではないか。例えば壁にサッカーゴールに見立てた線を引けば、それだけでもサッカーができる。気軽な形の整備でも十分だと思う。

事務局

市のバスケットボールコートの現状として茨城ロボッツや株式会社クボタの方々にご協力頂いて、市の総合運動公園の方に、3on3のバスケットボールコートが設置されているところ。

市長公室長

市内のあちこちにあれば、子ども達が使いやすいのが良いというご意見であるため、スポーツ推進室の方にお伝えさせて頂く。

委員

みらいりんぞうの着ぐるみについては、値段にこだわるのではなく、気温上昇にも対応できる、使いやすさを重視したものを作成して頂ければと思う。

デザインマンホールのデザインは1種類か。

つくばみらい市に観光名所と言われるもの、あまり無いとは私も聞くところだが、発信の仕方はもっとあるのではないかと思う。私は歴史に興味を持つようになってから、間宮林蔵記念館をとても良い施設だと感じるので、そのような物を周知していくことで、子どもたちが歴史をもっと気軽に勉強できるようになって欲しい。

また、私が住む地区には昔「足高城」というお城があったそうで、市に対して、訪れる方に足高城がかつてどこにあったのかを示せるようにして欲しいとお願いしている。市には様々な歴史的な場所があるので、それを市民に発信していくことが重要ではないか。

市制20周年記念献立事業について。普段の給食も、味付けや見た目など、よく工夫されていて感謝している。一方で、子どもたちの魚離れが進んでいると聞くため、魚を食べていただけるような工夫もお願いしたい。

産業経済課

今まで使っていたバルーンタイプの着ぐるみは、活用にあたり一部不便なところもあるので、その点の改善も含めて、メーカーと相談しているところ。暑さ対策についても、メーカーと調整して今後作成に向けて検討して行きたいと思う。

上下水道課

デザインマンホールは、5種類のデザインで製作を予定している。

学校給食センター

子どもの魚離れについては、担当としても苦慮しているところ。先日、茨城県産のメヒカリの唐揚げを給食で出したが、ある学校からすごく美味しかったという感想をいただいた。

子ども達に食べさせることは強要できないので、子ども達が魚を前向きに食べることができるような声かけと、子どもたちが食べたくなるようなメニューの作成に引き続き取り組んでいきたい。

委員

観光というところをもっと掘り下げてアピールして欲しい。

会長

市には世界地図に名を遺す探検家がいるので、そういったところも含めてPRしてもらえば良いのではないか。

委員

「みらいりんぞう」魅力発信事業について。使用頻度によって違うと思うが、現在2体の着ぐるみについて、耐用年数はあるのか。

また、今回1体追加するということだが、古いタイプの更新も発生するかと思うが、今後もふるさと創生基金を使って更新していく予定か。

マンホールカード作成事業について。素晴らしいデザインを作っていただき、市民への下水道事業の啓発と認知度向上に役立てて欲しい。

下水道料金の値上げが予定されているが、下水道に対する理解が進まないと、なぜ値上げをするのか、市民に理解して頂けないと思う。また、下水道事業は利用料金をもって運営しているので、加入率を上げられるよう促進していくことが重要。デザインマンホールやマンホールカードを通して、水道事業の認知度を上げて頂き、下水道の大切さを伝えられるよう努力してもらえばありがたい。

産業経済課

耐用年数は決められておらず、修理しながら大切に使いたい。年間50件ほど利用実績があり、今年10月時点で26回使用している状況。

更新については、修理しながらできるだけ長く使っていきたい。

上下水道課

啓発については、デザインマンホールは設置を HP などで周知するよう規約となつており、そういうもののを通して周知していきたい。

市長公室長

デザインマンホールを作る目的の 1 つとして下水道事業の啓発があり、デザインマンホールによって下水道の重要性を子ども達や市民に伝えるという目的があるので、委員からご意見があつた通り、下水道に関心を持っていただいた上で、下水道の供用開始のエリアになつていることについては、何のために下水道を整備しているのか、なども含めて、設置と教育を進めていければと思っている。

委員

上下水道事業の啓発という点では、東京都の下水道博物館のような施設にみんなで見学に行くのも効果があるのではないか。

また、マンホールカードの 1 回の発行数が 8,000 枚ということで、他の市町村を参考にしたことだが、つくばみらい市でこれだけ必要なのだろうかと感じる。配る場所も、学校で生徒たちに配るなどするのか。

各年度のカードの発行数は、前年度の需要の状況を見て発行する方がよいのではないか。

上下水道課

カードの発行枚数について、牛久市が今年初めて河童をデザインにマンホールカードを作り、その際 8,000 枚作成したが、足りないとのこと。

他の市町村については 10 年ほど前に作っているが、他の市町村が出ると、ついでに近隣自治体も訪ねてカードを貰おうというコレクターがいる。例えば、つくばみらい市が第一弾のカードを出せば、近隣自治体のカードの需要が増える可能性がある。

カードの発行については、4,000 枚は必ず作らなくてはいけない。配布状況を見ながら発行していきたいと思う。

配布場所について、マンホールカードはイベント等で無作為に配ることは推奨されていない。カードを取りに訪ねてきた方に対して、1 人 1 枚を手渡しで配るのが前提になる。

写真であれば、先ほど委員さんが言っていたような啓発活動もできるため、カードでない違う形でも啓発方法を検討していきたい。

会長

ストリートスポーツでは騒音の問題もあり、住宅街の中に施設を整備することは難しいところもあるかもしれないが、T Xの高架下を活用するなどして、もっと若者に楽しんでもらえる施設ができたらいいと感じた。

【審議結果】

いずれの事業もふるさと創生事業として適當と認める。

5. 閉会